様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　５ 日現在

機関番号：１７５０１
研究種目：若手研究
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ１３５５８

研究課題名（和文）早期国際化企業の国際的発展プロセスに関する理論的・実証的研究

研究課題名（英文）Study of the Post-entry Process of Early Internationalizing Firms

研究代表者
加納　拡和（Kano, Hirokazu）

大分大学・経済学部・准教授

研究者番号：１０８１４２２０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、早期国際化企業の国際化プロセスを解明することにある。本研究は創業初期から海外市場にて操業経験を蓄積することによって、その後の国際的な展開が促進されることを理論的、実証的に示した。より具体的には、①創業初期から直接投資に基づく操業形態で事業経験を蓄積することで地理的範囲の拡張が促進されること、②規制の品質が高い国、地域外の国において直接投資をすることで①の関係が強まるという理論的仮説を提示した。その上で海外事業活動基本調査を基にした実証分析において、仮説を支持する結果を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義
先行研究においては、企業の国際化の早期化を促す先行要因の解明に主眼が置かれ、早期国際化企業が最初の海外市場進出後にいかにして国際化プロセスを進展させるのかという問題は看過されてきた。本研究の学術的意義は先行研究におけるそのような空隙を埋めたことにある。本研究の成果は国際経営の研究領域における主要な学術誌であるInternational Business Review誌に掲載された。加えて、本研究の結果は海外事業に着手する時期の選択という重要な意思決定に関して実践的な示唆を提供できたと思われる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to elucidate the process of international expansion of early internationalizing firms. This study theoretically and empirically demonstrates that prompt accumulation of operating experience in foreign markets from the early stages facilitates its subsequent international expansion. More specifically, we hypothesize that (1) accumulating operating experience through equity-based modes from the early stages facilitates subsequent geographic expansion, and (2) foreign investments in host countries with high regulatory quality and outside the home region will strengthen the above association. The empirical analysis based on the Basic Survey of Overseas Business Activities supports these hypotheses.

研究分野：経営学

キーワード：早期国際化企業　国際化プロセス　企業家精神

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

1990 年代以降、創業初期から海外市場に積極的に進出する「早期国際化企業」が観察されるようになった。こうした早期国際化企業は OLI パラダイム等の既存の国際経営論における理論的枠組みの反例に当たるとして、非常に大きな関心を寄せている。OLI パラダイムにおいては、法制度、文化、経済状況などの諸条件が本国と異なる海外市場への進出には、企業にとって大きなリスクを伴うと仮定する。その上で、企業は海外市場に進出する際には知識や情報の不足という不利な競争条件を補って余りある経営資源を本国市場において蓄積しなければならないと論じてきた。それゆえ伝統的な理論的枠組みでは、十分な経営資源や経験を保有しない創業初期の企業の海外進出という現象を十分に説明することができないのである。

それゆえ、国際経営論の研究領域において、早期国際化現象を解明しようとする国際企業家論が台頭しつつある。国際企業家論の研究領域においては、とりわけ創業初期の企業の海外市場進出を促す先行要因に焦点を当てられてきた。その一方で、創業初期に海外市場に進出することが、その後の国際化プロセスにどのような影響を及ぼすのかという点に関しては研究成果が乏しいことが指摘されている。国際化プロセスの通時性に着目すれば、創業初期から海外市場に進出することは、現地において経験やフィードバックをいち早く獲得することに繋がり、そのことが後の国際化プロセスに影響を及ぼすことが想定される。しかしながら、創業初期の海外市場進出が国際化プロセスに及ぼす影響は十分に明らかにされていないのである。

２．研究の目的

本研究の目的は、創業初期から国際化に着手することが企業の国際的な発展プロセス、とりわけ地理的範囲の拡張にいかなる影響を及ぼすかを理論的、実証的に解明することにある。

３．研究の方法

本研究ではペンローズの企業成長理論を主な分析枠組みとした。彼女が展開した企業成長理論においては、企業家ないし企業家チームの累積的な（経験的）知識の成長が企業の成長を促すということが強調されている。このペンローズの企業成長理論の観点に立てば、早期国際化は創業初期から海外事業に関する経験的知識の獲得をもたらし、それを通じて海外市場における新たな生産機会の発見を促すと考えることができる。加えて、本研究では判断ベースの企業家論を補完的に援用し、こうした学習効果が操業形態や立地の選択に依存することに着目した。つまり、その学習効果は企業家の裁量が大きくなる直接投資に基づく操業形態において生じること、また規制の品質が高い国、本国と異なる地域に直接投資をすることでそのような学習効果が強まることが想定できる。以上から、本研究では「直接投資に基づく操業形態における事業経験の蓄積が早期国際化企業の地理的範囲の拡張を促す」、「その学習効果は規制の品質が高い国、本国と異なる地域に進出した場合に強まる」という理論的仮説を設定した。

本研究においては、経済産業省の「海外事業活動基本調査」のデータを基にこれらの仮説を検証した。分析に使用したデータは 2000 年から 2018 年に至る 19 年分のデータである。また、親会社の属性情報については「企業活動基本調査」、進出国に関するデータについては OECD や世界銀行が公開しているデータを接合することで、データセットの拡充に努めた。分析方法としては内生性の問題が懸念されるため、操作変数法を採用した。本研究における従属変数と独立変数のそれぞれが過去ないし将来の直接投資に規定されるが、先行研究においては期間の異なる直接投資が同時に選択されるという同時決定性の問題を孕んでいることが指摘されているからである。操作変数を用いた分析において上記の仮説が支持された。また、各種の頑健性チェックにおいても同様の結果が得られた。

４．研究成果

本研究の理論的、実践的な貢献として以下 5 点を挙げることができる。①創業初期の操業形態並びに立地の選択は、企業が獲得する経験的知識を規定し、ひいては更なる地理的範囲の拡張の程度に影響を及ぼすことが理論的、実証的に示した。②創業初期の海外市場進出は失敗率が高いこと知られているが、本研究の発見は長期的な国際展開に向けた学習効果という点から早期国際化の合理性を示唆する。③創業初期の海外進出から得られる学習効果に関して言及する先行研究も少数ながら提出されてきたが、本研究は操業形態や立地の選択がその学習効果に影響を及ぼすことが示された。④国際企業家論の先行研究において、未だ基本的な理論的枠組みが構築されていないことが問題視されてきたが、本研究はペンローズの企業成長理論や判断ベースの企業家論がその役割を果たしうることを示唆した。⑤本研究は早期国際化の学習効果を示すことを通じて、海外市場進出を開始するタイミングの選択という重大な意思決定に関して実践的な示唆を提供するものである。

以上の貢献が評価され、本研究の成果は Academy of International Business や Academy of Management 等の主要な国際学会に採択されてきた。最終的に、本研究の成果をまとめた論文は国際経営の研究領域において代表的なジャーナルの一つである International Business

Review 誌に掲載された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Kano Hirokazu	４．巻 42(3)
２．論文標題 The dilemma and its solution of deep uncertainty in the dynamic capabilities framework: Insights from modern Austrian economics	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Managerial and Decision Economics	６．最初と最後の頁 605～611
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/mde.3257	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Kano Hirokazu	４．巻 32
２．論文標題 Early internationalization and subsequent geographic expansion: An extended Penrosean perspective	５．発行年 2023年
３．雑誌名 International Business Review	６．最初と最後の頁 102074
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.ibusrev.2022.102074	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　0件／うち国際学会　5件）

１．発表者名 Kano Hirokazu
２．発表標題 Earliness of First Foreign Entry and Rapidness of Post-entry Process
３．学会等名 Academy of Management（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Kano Hirokazu
２．発表標題 The Relationship between Earliness and Rapidness in Internationalization Process: Insights from Penrose’s Theory of Firm Growth
３．学会等名 Academy of International Business（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Kano Hirokazu
２．発表標題 Early Internationalization and the Subsequent Geographic Expansion: An Extended Penrosean Perspective
３．学会等名 Academy of International Business（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kano Hirokazu
２．発表標題 The Effect of Early Internationalization on the Subsequent Geographic Expansion: An Extended Penrosean Perspective
３．学会等名 European International Business Academy（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 加納拡和
２．発表標題 早期国際化企業における地理的範囲の拡張：ペンローズの企業成長理論からのアプローチ
３．学会等名 日本経営学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kano Hirokazu
２．発表標題 Early and Rapid Internationalization as Means of Entrepreneurial Experimentation and Learning
３．学会等名 Academy of Management（国際学会）
４．発表年 2020年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関